



～アミティーザ[®]の使用を試す～

○江草 昌美、吉田 賢治、迫田 夕子、
大窪 由美子、藤井 恵子、松見 勉、
永井 巧雄、山内 崇宏、心石 敬子、
高杉 敬久



はじめに

多くの透析患者が多種の内服薬を使用しており、悩みの一つである便秘に対しても多量の薬剤が使用されているが、排便コントロールに課題を持つ患者が多い。

今回、abbottジャパン株式会社（以下abbottとする）より、慢性便秘症の効能・効果を認められ2012年11月に販売開始になったアミティーザ[®]カプセル24 μ g（以下アミティーザ[®]）の使用機会を得た為、下剤投与量の減量と排便コントロールが可能であるか試みたので報告する。



対象と方法

●対象

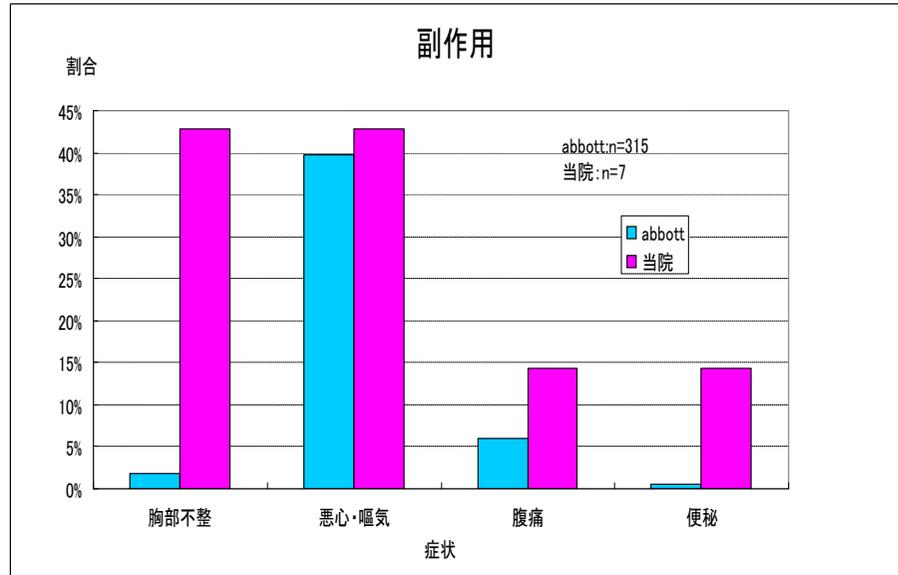
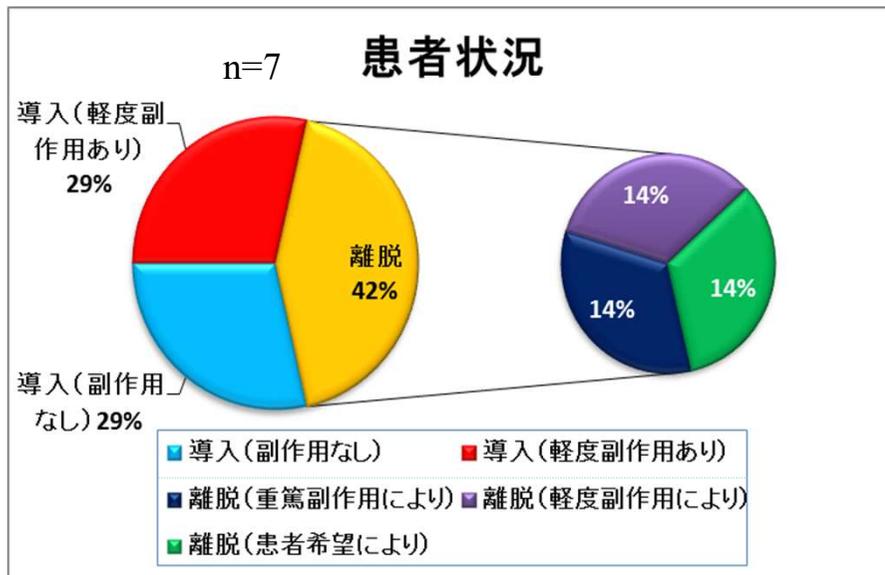
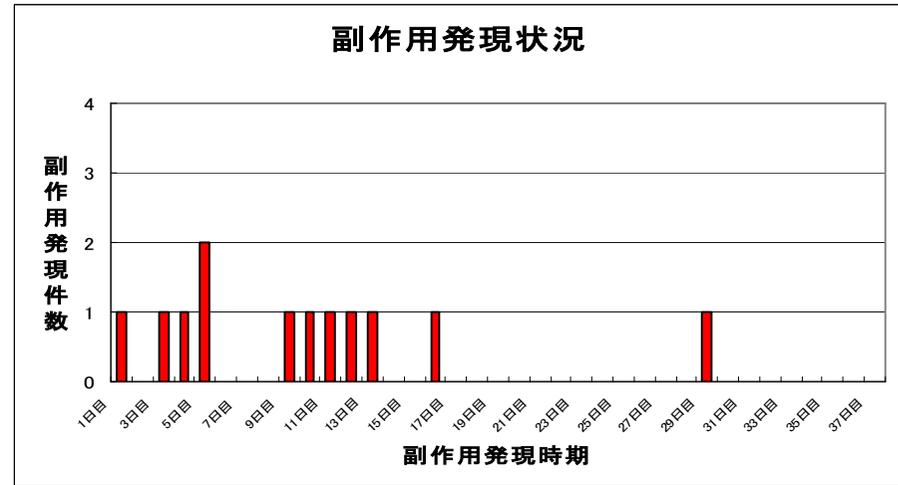
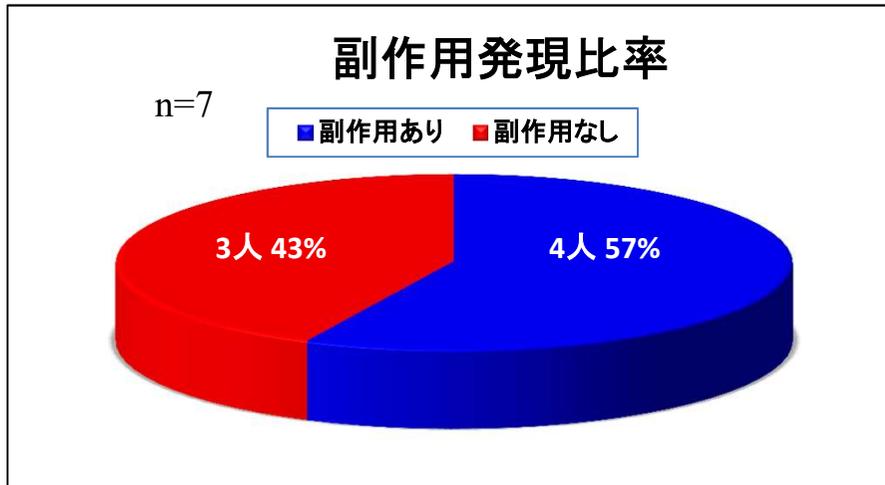
- ・当クリニックの透析通院患者のうち、プルゼニド使用者59名の中から10名をランダム選出し、同意を得られた7名。

●方法

- ・アミティーザ[®]を使用する前後2ヶ月分の排便回数・量・性状をブリストル便形状スケールを用いて対象者自身に専用カレンダーへ記入して頂き検証。



副作用と患者状況





症例紹介①

症例1

64歳、男性 透析歴4年

アミティーザ®使用前

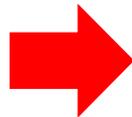


+



排便困難時に追加

アミティーザ®使用后



アミティーザ®の使用前は、排便コントロール困難時に下剤の追加内服をしていたが、使用後は追加内服することがほとんど無くなった。

また、1回の排便量に変化は無いが、頻回に起きていた腹痛がアミティーザ®使用後は消失。

症例2

57歳、女性 透析歴14年

アミティーザ®使用前



+



排便困難時に平均3回/週追加

アミティーザ®使用后



+



1~2回/週追加

アミティーザ®の使用前は、排便コントロール困難時に平均3回/週の頻度でラキシベロンを10滴/回内服していた。アミティーザ®導入後はラキシベロンの滴下数は変更ないが、追加回数が1~2回/週に減少した。排便量、性状、回数ともに導入前と変化はなく副作用の発現はない。



症例紹介②

症例3

63歳、男性 透析歴8年

アミティーザ®使用前



+



毎日追加

アミティーザ®使用后



+



1~2錠をほぼ毎日追加

or



アミティーザ®使用前は、突発的な腹痛にほぼ毎日悩まされ、強い不安感から下剤の追加を毎日行っていた。

アミティーザ®使用后は、下剤を減量できた上に突発的な腹痛は消失した。排便コントロールもスムーズになってきたが不安感が完全に消失した訳ではなく下剤の追加行為は継続中。

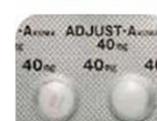
症例4

54歳、女性 透析歴11年

アミティーザ®使用前



アミティーザ®使用后



アミティーザ®を使用する事で下剤の使用を11錠から7錠に減量できた。アミティーザ®使用前後の便性状や回数に大差ない。

しかし、アミティーザ®使用后は若干の残便感と排便時に胸部違和感を訴えている。関連性は不明のため医師確認の上で、アミティーザ®の使用を継続中。



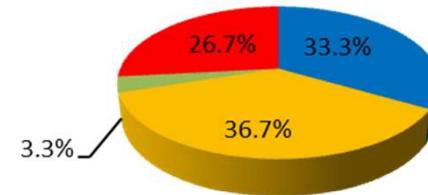
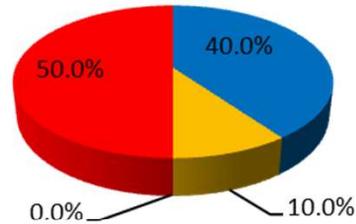
排便回数と比較

n=30
(day)

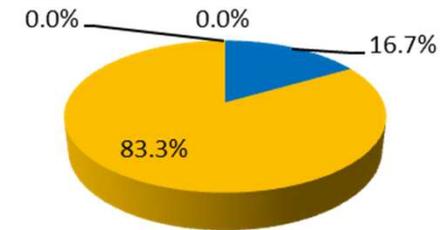
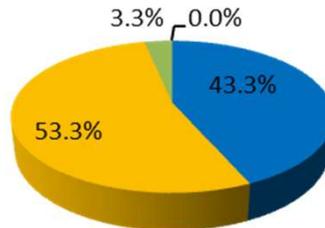
アミティーザ®使用前

アミティーザ®使用后

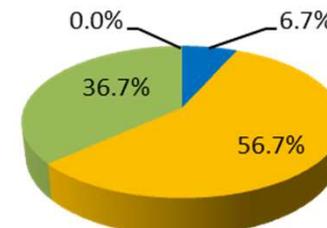
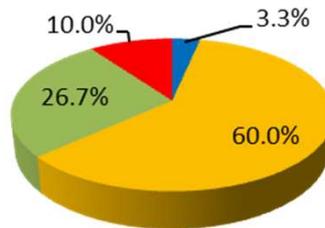
症例1



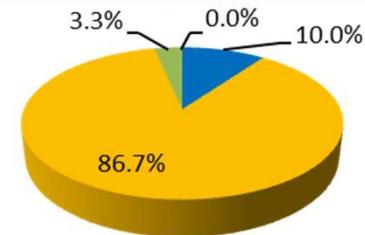
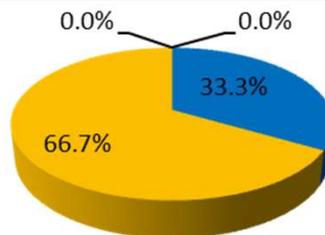
症例2



症例3

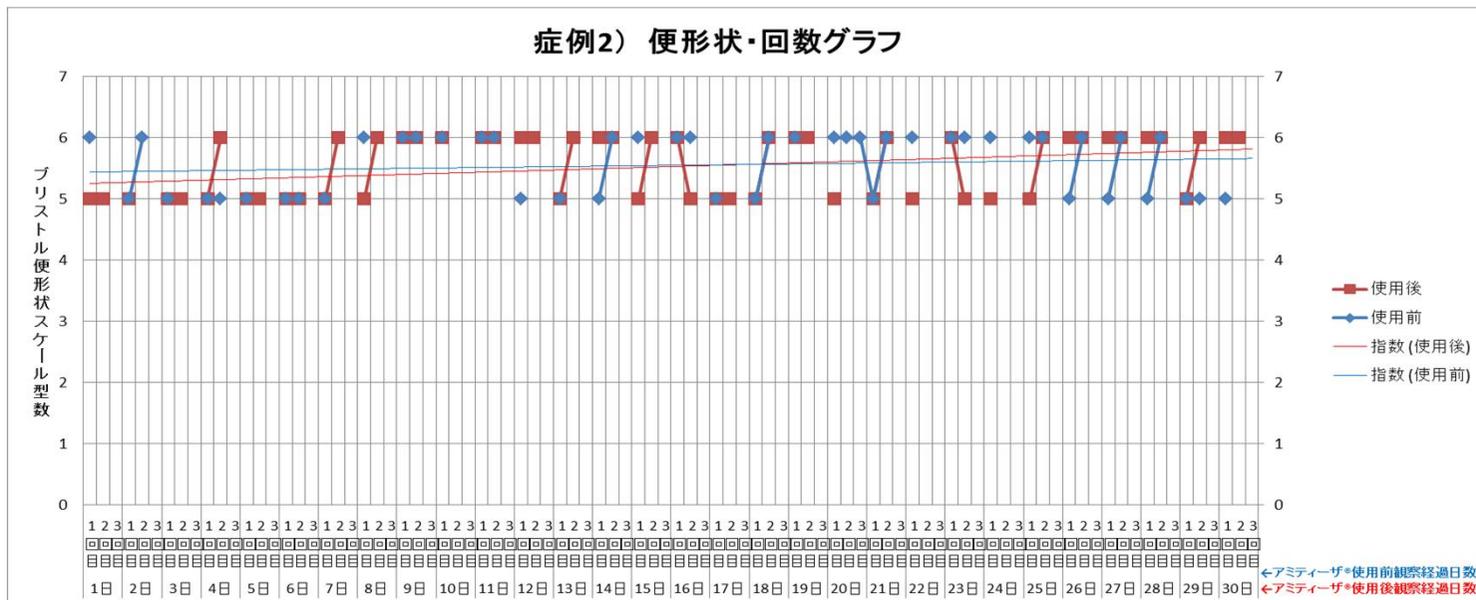
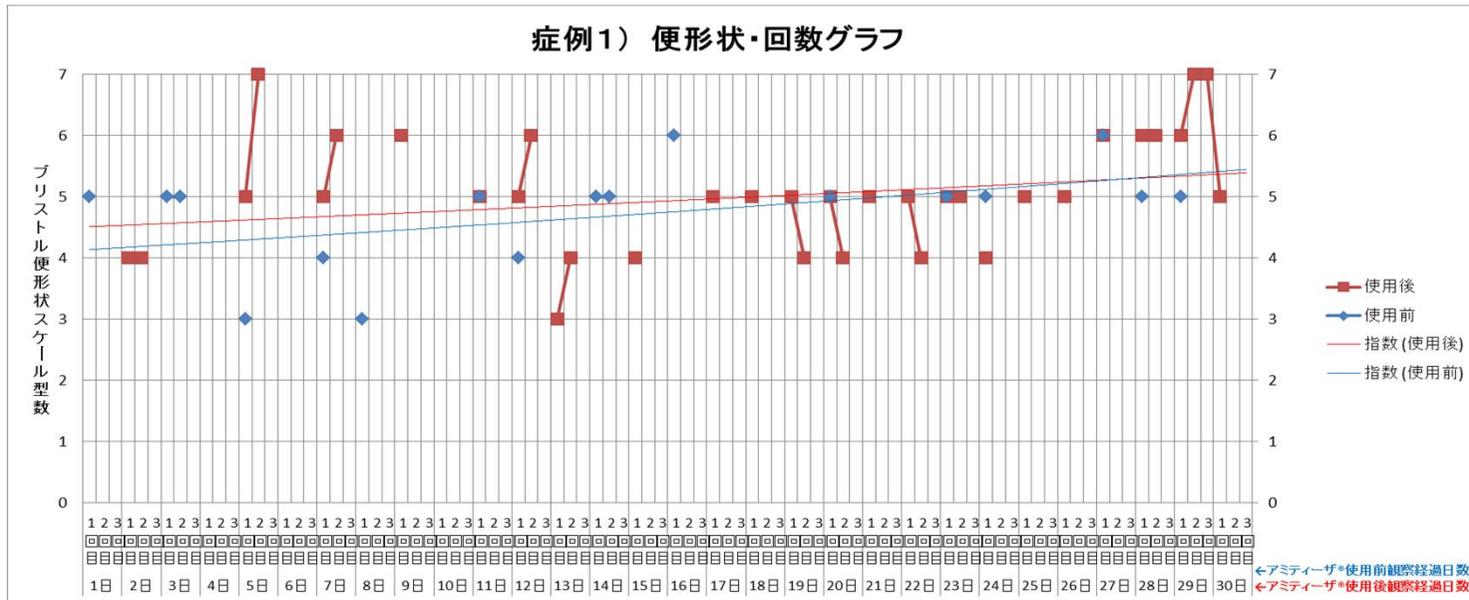


症例4





排便性状の比較①





結果

- 透析患者の1日の最大投与量は、健常者(48 μ g)に対し半量の24 μ gである。abbott発表による臨床試験における副作用発現率が62.2%に対し、当クリニックは57%と投与量による副作用発現率は類似していた。
- アミティーザ[®]の副作用発現時期の比較では、abbott発表では約90%が投与開始から2週間で副作用が発現している。これに対し、当クリニックは2週間で約83%の発現となっており、副作用発現時期を比較しても同様な推移であった。
- 今回のアミティーザ[®]の使用で、スムーズに導入できた患者は2名、副作用発現も軽度のため導入できた患者は2名、患者自身による希望離脱と重篤副作用の発現による離脱を含め離脱患者は3名となった。



考察

- 今回、アミティーザ[®]使用に対する副作用を、メーカー発表の臨床試験結果と比較したが、大差なかった事より、透析患者への導入にもメーカー臨床試験結果を参照できる。
- アミティーザ[®]使用開始から2週間は特に副作用の発現や経過に注意が必要である事がわかった。しかし、必要な事象について十分な結果を得る事ができていないため、今後も使用を継続しアミティーザ[®]について情報を充実していく。
- 副作用発現率が高いアミティーザ[®]使用に対し、今回の対象患者7人中4人が導入できたことで、今後、便秘に悩む多くの透析患者に慎重な観察のもと使用できると考える。
- 今回の患者選択はランダム選出であったが、下剤を使用している患者を対象に挙手選出していれば、導入比率が今回の検証結果よりも高値になった可能性も考えられる。



結語

● 今回の試みは、薬効や排便コントロールに対する十分な結果を得る事ができなかった。しかし、2名の患者については今回の試みで明らかに悩み解決を提供することができ貴重な経験であった。

● 今後、アミティーザ[®]の導入に対して、更に薬剤理解を深め、患者や医師と連携をとりながら1人でも多くの透析患者の排便に対する悩みに関わっていきたい。